

【研究ノート】

## 公共空間における女性の彫像に関する一考察

高山 陽子

### はじめに

日本の公共空間に設置された女性裸体像で、歴史性と政治性を示すものは極めて少ない。女性裸体像に与えられたタイトルは、「平和」や「希望」などの漠然としたものである。しかし、なぜ若い女性の裸体が平和を象徴するのかという説明は与えられていない。そして、なぜ常に若い女性がモデルであり、それが芸術であるのかという説明もほとんどない。

古くから人間の裸体を芸術の主題に置いてきたヨーロッパでは裸 (naked) と裸体像 (nude) は巧妙に区別されてきた。前者は文字通り衣服を着ていないという意味であるが、後者は文化的な意味を持つものとされる [クラーク 2004]。野外にも女性裸体像は見られるが、それらはギリシア神話の女神を表すもので、美術館などの屋内【写真1】か庭園のような私的な空間【写真2】に設置されている。日本のように駅前空間に「平和」や「希望」と称した女性裸体像が脈絡なく立っていることはない [白川 2017: 15]。戦後、駅前や市役所前などの公共空間に次々と有名無名の作家による女性裸体像が作られた。こうした公共空間の女性裸体像に対して若桑みどりは、類型化した上で、「下品で猥褻そのものであり、女性の羞恥と怒りを買うに十分なもの」だと指摘した [若桑 2012: 403]。

1世紀以上前に建てられた世界中のヴィクトリア女王 (Alexandrina Victoria, 1819-1901) の彫像が撤去されずに現存するのは、植民地統治とい



写真1 三美神とキューピッド  
(コペンハーゲン、トーヴェルセン美術館)



写真2 ベルサイユ庭園の女神像

う政治性が女性の姿によって希薄化されているためである。体制転換後に男性統治者の彫像が引き摺り下ろされるのは現代社会の風物詩である一方、女性の彫像が倒される事例はない。もともと女性の彫像の政治性は極めて薄く、さらに、裸体という何一つ属性も付与されていない姿が語りうるのは、政治でも歴史でもなく、「人魚姫」のような儂い物語のみである【写真3】。

日本では公共空間に設置された彫刻の呼び名が一定していない。野外彫刻や野外彫像、屋外彫刻、公共芸術、環境彫刻などの呼び名がある中、近年で

はしばしばパブリックアートと呼ばれる〔松尾 2015 : 30〕。地藏や道祖神ではない写実的な野外彫像は、明治以降、欧米から輸入され、急速に日本の公共空間を埋めていった。これが一般的に銅像と呼ばれる。明治期、「東京三代銅像」、すなわち、靖国神社の大村益次郎像（1894年）、上野恩賜公園の西郷隆盛像（1898年）、皇居外苑の楠木正成像（1900年）が建立され、軍国主義化が進むとともに国家顕彰碑としての軍



写真3 人魚像（コペンハーゲン）

人像が増えていった。これらは戦中の金属供出と戦後のGHQの政策によって、大半が撤去された。それに代わって登場したのが乙女の像である。

こうした点を踏まえ、本稿では、最初に女性の彫像を分類した上で、公共空間における女性裸体像の設置を巡る問題点を整理する。なお、本稿では一般的な銅像（bronze statue）を野外彫像（public statue）、あるいは彫像（statue）と呼び、人物像以外の野外彫刻（public sculpture）と区別する。そして、これらを含むものをパブリックアート（public art）とする。

## 1. 女性の彫像の分類

女性の彫像は大きく5種類に分類できる。すなわち、①女帝・女王の像、②女性英雄の像、③女性偉人の像、④母子像、⑤乙女の像、である。5種類の彫像の事例と特徴を以下で簡単に紹介したい。

### ①女帝・女王の像

ヴィクトリア女王【写真4】やマリア＝テレジア（Maria Theresia, 1717-1780）【写真5】などが代表であり、主に都市の公園や広場にある。統治者と



写真4 ヴィクトリア女王像（香港）



写真5 マリア＝テレジア像  
（ウィーン）

しての女王あるいは女帝は歴史上それほど多くはない。最多を誇る統治者としての女王像はヴィクトリア女王のものである。ウィキペディアに「ヴィクトリア女王像のリスト」(List of statues of Queen Victoria)の項目があり、132体が挙げられている。イギリス77体を筆頭として、カナダ10体、オーストラリア10体、インド7体、ニュージーランド4体のように旧イギリス植民地にも銅像が並ぶ。その内の約半数は女王の生前に設置された。

オーストリアの女帝・マリア＝テレジア像は、各所に歴代のオーストリア国王や芸術家の彫像が立つウィーンにおいてもひとときわ壮麗なものである。1883年に竣工した高さ19mの像は、美術史美術館と自然史博物館の間のマリア＝テレジア広場にある。マリア＝テレジアの荘厳な彫像と対比するように、もう一人の著名な王妃、エリーザベト(Elisabeth Amalie Eugenie von Wittelsbach, 1837-1898)【写真6】の彫像は優美で可憐である。シシイの愛称で知られるエリーザベトは16歳で皇帝フランツ・ヨーゼフ1世(Franz Joseph I, 1830-1916)に嫁ぎ、オーストリア＝ハンガリー二重帝国の建国に貢献した。長男の死後、ヨーロッパを旅して回ったことから各地に彼女の彫像が立つ。ウィーンやザルツブルク、ブダペスト、メラノ、トリエステなど縁のある場所に立つ彼女の像は、身長172cm、ウエスト50cmのスリムな体を表している。



写真6 エリーザベト像  
(ザルツブルク)

## ②女性英雄の像

女性英雄には、社会主義革命運動・革命戦争に従事し、その犠牲になった人物が多く含まれる。最初に公共の場に戦う女性の姿が視覚化されたのは、パリのエトワール凱旋門のレリーフにおけるマリアヌ【写真7】である。アギュロンが指摘するように、マリアヌは自由と革命と共和制を象徴する寓意的存在で、そのイメージは古代ギリシアの勝利の女神アテナに由来する。それは抽象



写真7 マリアヌヌ（パリ、凱旋門）



写真8 毛沢東思想勝利万歳（瀋陽）

的なものであり、特定の人格を備えている像ではない [アギュロン 1989]。こうした勇敢なイメージはニューヨークの自由の女神像に引き継がれたほか、社会主義国の女性英雄像に用いられた。北京の農業展覧館前の「慶豊収」や瀋陽中山広場の「毛沢東思想勝利万歳」【写真8】のように、筋肉を強調した女性像は伝統的なヨーロッパ美術の中では作られなかったものである。

ただし筋肉美が描かれた女性像は匿名のものであり、実際に女性英雄（女性烈士）と呼ばれる人物の彫像はどちらかといえば華奢である。秋瑾（1875-1904）【写真9】、趙一曼（1905-1936）、賀子珍（1909-1984）、向警予（1895-1928）【写真10】などの彫像は、彼女たちの波乱に満ちた人生に反して、英雄的な風貌を持ち合わせていない。社会主義期に制作されたプロパガンダポスターでは、個別的な男性英雄の表象に対して、女性労働者や女性紅衛兵は、社会主義建設というスローガンを表現する抽象的な姿で描かれる [高山 2015]。それは女性像も同様であり、社会主義ドラマや映画の主人公とな

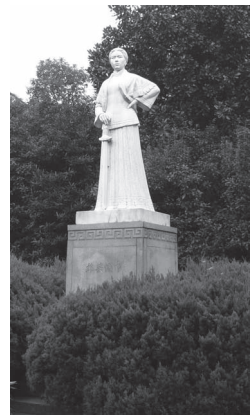


写真9 秋瑾像（杭州西湖）



写真10 向警予像（武漢）

る女性英雄であっても、公共空間では一般的な「美しい彫像」として建立される。

### ③女性偉人の像

女性偉人の像には、マリー・キュリー（Maria Skłodowska-Curie, 1867-1934）、ヘレン・ケラー（Helen Adams Keller, 1880-1968）、宋慶齡（1893-1981）などがあり、女性英雄と同じように穏やかな表情で作られている。

2018年4月24日、ロンドンの国会議事堂前広場にジリアン・ウェアリング（Gillian Wearing, 1963-）という女性作家によるミリセント・フォーセット（Millicent Fawcett, 1847-1929）の彫像が設置された。その際、BBC NEWSに掲載された「イギリスにいくつ女性の彫像があるのか？」という記事によると、公共彫像828体のうち、男性彫像が534体、女性彫像が174体、男女混合彫像が79体、その他が41体である。人物が特定できるのは、男性彫像の8割であるのに対して、女性彫像は4割で、その約半分がヴィクトリア女王などの王族のものである。フォーセットは、30歳以上の女性に制限付きの参政権を認めた国民代表法の成立に貢献した。チャーチルなどの銅像が並ぶ国会議事堂前広場に女性の銅像が設置されたのは初めてであり、さらに、女性がこの広場の銅像を手掛けたのも初めてであった。

ワシントンD.C.の100体以上の記念碑を紹介した *Monuments and Memorials of Washington, D.C.* には、単体の女性像としてはジャンヌ・ダルク像（1922年）、エレノア・ルーズベルト像（1980年）、ジェーン・デラーノ像（1934年）、愛国婦人団体（DAR）記念碑（1929年）がある。その他は第一次世界大戦兵士記念碑（1924年）やベトナム女性メモリアル（1993年）があるが、いずれも匿名の女性像である。

日本では地元のシンボルとして女性偉人の像が設置される傾向が強い。もっぱら設置主体は地元の市民団体で、制作は地元出身の彫刻家が担当する。徳川家光の乳母として仕えた春日局の彫像は1989年12月26日、市民団体「春日局推進協議会」によって文京区役所前に設置された。制作者は北村西望（1884-1987）に師事し、後に日本彫刻会理事を務めた高橋剛（1921-1991）である。出雲市の出雲阿国の彫像は「出雲阿国像建立委員会」が寄付金を集めて設置したもので、台座2m、像の高さは1.8mである。歌舞伎の始祖らしく、右手に扇、左手に刀を持って踊る姿で表現されている。

近代の人物としては、与謝野晶子（1878-1942）や乃木希典の妻、乃木静子（1859-1912）の彫像がある。与謝野晶子の彫像は、1998年5月30日、南海堺駅近くに設置された。制作は堺市在住の彫刻家・玉野勢三（1954-）で、堺東ライオンズクラブの創立25周年と与謝野晶子生誕120年を記念して建てられた。台座には、「ふるさとの潮の遠音のわが胸に ひびくをおぼゆ初夏の雲」という句が刻まれている。夫と義母に尽くし、当時、「良妻賢母」と称えられた乃木静子の彫像は、1919年に日薩摩藩士らが設置したが、現在のものは再建されたものである。戦中の金属供出で撤去され、台座のみが残った。2012年、没後100年を記念して2014年、「乃木静子夫人奉賛会」が結成されたことで、1000万円ほどの寄付金が集まり、2016年11月27日の除幕式につながった。

こうした例のあるものの、女性偉人の彫像の多くはNHK連続テレビ小説（通称、朝ドラ）やNHK大河ドラマの放送をきっかけに設置される。前者の例では『あさが来た』（2015-2016年放送）の主人公、広岡浅子（1849-1919）の彫像が挙げられる。2018年3月29日、大同生命大阪本社の1階ホールに設置された像の台座には浅子のペンネーム「九転十起生」が刻まれている。後者の例では、『篤姫』の主人公、天璋院篤姫（1836-1883）の彫像（2010年12月19日設置、中村晋也制作）や、『八重の桜』の主人公、新島八重（1845-1932）の彫像（2013年9月7日設置、橋本堅太郎制作）、『花燃ゆ』の主人公、文（後、美和子、1843 - 1921）と夫の楯取素彦（1829-1912）



写真11 母の像 (靖国神社)

の彫像（2015年3月29日設置）などがある。いずれも台座が低く、威圧的な雰囲気を持つものではない。

#### ④母子像

「母の像」【写真11】という名称の母子像は、靖国神社をはじめ各地の護国神社に立つ。靖国神社の母子像は宮本隆（1917-2014）が制作し、1974年に遊就館正面に設置された。この場所には、「戦没馬慰霊」（1958年）、「鳩魂塔」（1982年）、「軍犬慰霊像」（1992年）、「特攻勇士の像」（1999年）がある。母子像と特攻隊員像、軍犬像、軍馬像はもっぱら遺族会によって設置されたものである。例えば、大阪護国神社の「母に感謝の像」は2006年、「特攻勇士の像」は2009年に設置された。「母の像」と題される彫像は、基本的に2人の子どもを連れた未亡人の姿をしている【写真12】。



写真12 母の像  
(三重、上野公園)

ヨーロッパではピエタがこのカテゴリーに相当する。十字架から降ろされたキリストを抱く聖母マリアの彫像および絵画はピエタと呼ばれ、多くの芸術家がピエタを制作してきたが、それが宗教的題材という以上の意味を持つようになったのは、第一次世界大戦後である。息子を亡くした母親の悲しみを癒すためにピエタのイメージが選ばれた [モッセ 2002]。とりわけ有名になったのはケーテ・コルヴィッツ (Käthe Kollwitz, 1867-1945) による「死せる息子を抱く母」(ピエタ)である。ピエタが置かれているベルリンのノイエ・ヴァッヘは、第一次





写真13 ピエタ  
(ベルリン、ノイエ・ヴァッヘ)



写真14 母子像(長崎、平和公園)

世界大戦後、世界大戦戦没者記念館となり、戦没者顕彰碑、ファシズムおよび両大戦犠牲者のための警告記念碑と改名を繰り返し、1993年、ドイツ中央追悼所となった。その際、内部にコルヴィッツが1937年に制作したブロンズ作品のピエタが拡大・設置された【写真13】。現在でも尾を引く問題は、作者の許可なく作品を拡大して設置した点と、宗教的な意味を持つ彫像を国家の追悼施設に置く妥当性である。

追悼碑としてのピエタの問題は長崎でも起こった。1997年、長崎で「被爆50周年記念事業碑」として長崎出身の彫刻家・富永直樹(1913-2006)が制作した母子像が原爆落下中心地に設置されることになったが、長崎市民の反対によって母子像は公園内の別の場所に設置された【写真14】。長崎市民は、この母子像がピエタを想起させるものであるとして、政教分離に違反すると主張し、市に母子像の撤去と伊藤一長市長に制作費1億4700万円の返還を求めた。裁判が続く中、2007年4月17日、伊藤前市長が銃撃され、死亡したことで争いは鎮火した[高山2011]。

### ⑤乙女の像

戦後、国家顕彰としての軍人や政治家の彫像に置き換えられるように、「平和」のようなタイトルの乙女像が登場した。日本最初の公共空間におけ



写真15 平和の群像（東京、三宅坂）

る女性裸体像は、三宅坂の「平和の群像」【写真15】である。戦前、この場所には北村西望作の寺内正毅（1852-1919）の騎馬像が置かれていた。これは戦中の金属供出で撤去され、1951年、日本電報通信社の依頼で東京芸術大学の菊池一雄（1908-1985）が三人の女性裸体像を制作した。続いて設置されたのは、高村光太郎

（1883-1956）作の「乙女の像」（1953年、十和田湖畔）【写真16】、朝倉文夫（1883-1964）作の「三相：智情意」（1959年、上野駅）【写真17】、舟越保武（1912-2002）作の「たつこ像」（1968年、田沢湖）【写真18】のように女性裸体像の設置が続いた。「平和の群像」や「三相：智情意」は、【写真1】の「三美神」と同じくヨーロッパで古くからある三人一組の女性裸体像の形をとる。



写真16 乙女の像（十和田湖畔）



写真17 三相・智情意（上野駅）

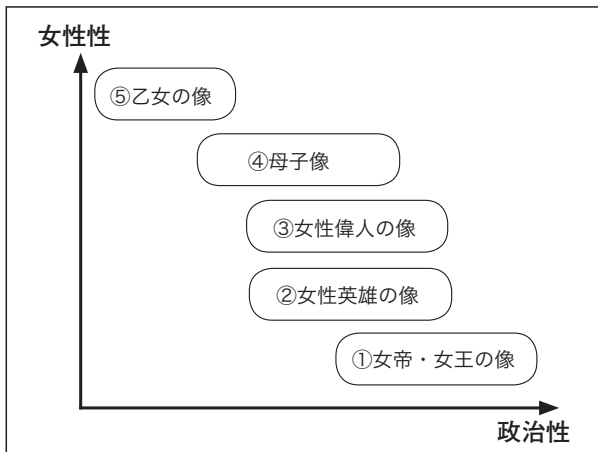
5種類の彫像を政治性と女性性に沿って位置づけみると、【図】のようになる。政治性が最も強いものが①女帝・女王の像であり、その次に②女性英雄、③女性偉人が続く。④の母子像は、政治性が強い戦前の「靖国の母」から、宗教性が強いピエタものまで、多様である。最も政治性が弱いのは⑤の乙女の像である。設置場所も①



写真18 たつこ像（田沢湖）

は公共性が強い広場であり、②と③は公園、④は墓地、⑤は湖畔や都市の空き地などである。多くの乙女の像はパブリックアート設置事業において登場したため、場所との関連性が低い傾向がある。それでは、パブリックアート設置事業とは何か。次に戦後日本の野外彫像設置とパブリックアートの関係について整理したい。

図 女性像カテゴリー



## 2. 野外彫像と野外彫刻展

高村光太郎の「乙女の像」【写真16】は、日本の彫像が国家顕彰碑としてのものから野外彫像へ転換していった起点を示す。戦中、民族文化を礼賛する立場から戦争賛歌の作品を作っていた光太郎は、戦後、日本軍が行った数々の蛮行を知り、疎開先の花巻から東京へ戻らず、そのまま岩手の山小屋に移り住む。その後、青森県から十和田湖畔に建てるための記念像の依頼が舞い込む。光太郎は、智恵子観音を制作したいと思っていたところであり、十和田湖畔に「処女の裸像」を建てることを決意する〔湯原2003：264-265〕。「乙女の像」や「平和の群像」など1950年代半ばまで公共空間における彫像は、「平和」というイデオロギーを表すことが主要な目的であったが、次第にその価値は薄れていった。その理由の一つは戦後復興が進んだことであり、もう一つは野外彫刻展が各地で開催されたことである〔竹田1997：4-10〕。

最も早く野外彫刻展を行ったのは山口県宇部市である。1961年、『朝日新聞』に「彫刻都市に衣がえ」という記事が掲載された。

“バイジンの町”宇部の街路を彫刻で飾ろうという明るい話が進められている。昨年9月、同市の女性問題審議会（代表・作家上田芳江氏）が町の環境をよくしようとこの運動を取り上げた。初め地元の彫刻家に頼もうかということになっていたが、会合を重ねるうちに、星出市長が「どうせ作るなら美術的にも価値のあるものになりたい。それには専門家の意見が必要だ」といい、岩城私立図書館館長から知人の彫刻家向井良吉氏に相談、向井氏も「われわれの仲間で作成を引き受けよう」と、とんとん拍子に話が進み昨年11月17日、向井氏が宇部に来て具体的な打ち合わせができあがった。

制作は同市の属する日本新鋭彫刻家集団が全面的に協力、“うべ”を1961年の制作テーマとして今年10月にこの発表会を東京で開く。このあ

と宇部にそっくり作品を持ち込み展覧会を開き、その中から適当な作品を選んでこれらを町に飾れるようにしたいので小中学校の工作の先生も協力して宇部で制作する。

[朝日新聞 1961年2月6日]

こうした経緯について、宇部市のウェブサイトでは「彫刻とうべ」というページで宇部市における彫刻の歴史を紹介している。

宇部市では、戦後の混乱期、まちの美化と心の潤いを目指す「緑化運動」「花いっぱい運動」が展開される中で、自然と人間との接点としてまちに彫刻を置こうという「宇部を彫刻で飾る運動」が市民運動として広がり、これを受けて、1961年に大規模な彫刻展「宇部市野外彫刻展」が開催されました。以来、名称を変えながらも2年に一度のビエンナーレ方式により開催を続け、2011年の第24回展で通算26回、50周年を迎えました。

……

[宇部市ウェブサイト]

1962年の野外彫刻展には、日本で初めて大規模な野外抽象彫刻「蟻の城」【写真19】が常盤公園（現、ときわ公園）に設置された。作者は、向井良吉（1918-2010）である。1925年に宇部市常盤公園として開園した公園の中心を占めるのは、約320年前に築堤された灌漑用人造湖・常盤湖（常盤池）である。戦後、ときわ遊園地開園（1958年）、ときわ動物園



写真19 蟻の城（ときわ公園）



写真20 UBE ビエンナーレ彫刻の丘  
(ときわ公園)

開園（1955年宮大路動物園として開園、1964年移設）、石炭記念館開館（1969年）、ときわ湖水ホール開館（1991年）と続き、2007年、ときわミュージアムが開館した。ときわ湖水ホールがUBE ビエンナーレの応募作品展示会場として使われ、そこで選考された作品が野外彫刻となってUBE ビエン

ナーレ彫刻の丘【写真20】に展示される。若手彫刻家の登竜門となったUBE ビエンナーレには毎回、300～400ほどの応募があり、その内の3分の1は海外からの応募である。

戦前、盛んに作られた偉人・英雄顕彰碑としての人物像は高い台座の上に置かれたが、戦後に野外彫刻として作られたほとんどの作品には台座がない。それは、1968年の小豆島における第1回日本青年彫刻家シンポジウムで結成された環境造形Q（山口牧生 1927-2001、増田正和 1931-1991、小林陸一郎 1938-）が作った彫刻が台座のないものだったためである。大阪市北区のプラザホテル（1999年廃業）のロビーに設置された向井良吉の「花と女性」（1969年）は、「建築とアートのコラボレーションのさきがけともいえる作品で、当時のパブリックアートを代表するもの」（作品説明より）といわれた。こうした作品や設置方法が現代日本のパブリックアートの基本となった。

1963年、神奈川県真鶴で日本初の彫刻シンポジウム「世界近代彫刻シンポジウム」が開催された。このシンポジウムにおいて、日本の彫刻家たちは世界で最初に彫刻シンポジウムを主催したカール・プラントル（Kari Prantl, 1923-）の理念に共感することが確認された。それは、野外空間における公開制作、既存のアカデミズムや商業主義・芸術家のエゴイズムの克服であっ



写真21 シオン（神戸）



写真22 MARINA（神戸）

た。また、シンポジウムは1964年の東京オリンピックに付随するイベントであったため、作品をオリンピック施設に飾ることや都市の美化に貢献することも期待された。彫刻家が集まって共同生活を送りながら制作を行う彫刻シンポジウムは、その後、小豆島や静岡県天竜などで開催されていったが、地域や地方自治体と彫刻家の間の相互理解は十分ではなかった〔柴田2010：81-82〕。

1970年代に入ると、地方自治体が「彫刻のあるまちづくり」事業を推進した。神戸市は1976年、「緑と彫刻の道」事業を始め、1981年までに市役所からJR三ノ宮駅・阪急三宮駅に向かう道路と東遊園地に約30基の彫像を設置した〔表1〕。舟越保武の「シオン」【写真21】や新谷琿紀（1937-2006）の「MARINA」【写真22】などの彫像が置かれた道は、1979年、「花と彫刻の道」と命名された。複数の野外彫刻を道路沿いや湖畔に設置する事業は、名古屋市（1980年）、高岡市（1981年）、北九州市（1981年）、福岡市（1982年）、広島市（1982年）、鹿児島市（1984年）、荒川区（1985年）、姫路市（1986年）、福島市（1987年）のように各都市が行った。

1992年、洞爺湖では「とうや湖ぐるっと彫刻公園」事業が始まり、これ

表1 「緑と彫刻の道」(神戸フラワーロード)

作品名	作者	形態
なほ	岩野勇三	女性裸体像
少女	大桐國光	女性裸体像
家族(女神と天使そして男)	松本雄治	男女裸体像
少年の日	廣嶋照道	男性裸体像、撤去
WIND	津野充聡	女性裸体像
MEDETAI	流政之	魚の像
長い午後	掛井五郎	女性裸体像
浮遊する物体	石黒鏑二	抽象彫刻
AMORE	新谷ユウキ <sup>注</sup>	女性裸体像
風の標識 No. 45	大成浩	抽象彫刻
ALBA	新谷ユウキ <sup>注</sup>	女性裸体像、撤去
雲の中の海	吉田隆	抽象彫刻
レダ	桜井祐一	女性裸体像
追憶	山本正道	動物の像
わたしと私	井上玲子	抽象彫刻
湖風	一色邦彦	女性裸体像
帽子・裸婦	佐藤忠良	女性裸体像
道標・鴉	柳原義達	カラスの像
WOMAN	朝倉響子	女性裸体像
エーゲ海に捧ぐ	木内克	女性裸体像
MARINA	新谷ユウキ <sup>注</sup>	女性裸体像
スプリング・ストーン	環境造形 Q	抽象彫刻
シオン	舟越保武	女性裸体像
日本近代洋服発祥の地記念彫刻	環境造形 Q	抽象彫刻
加納宗七像	福田青陽	男性立像
困っている道祖神	木村賢太郎	抽象彫刻
スペースアイ	多田美波	抽象彫刻
マスク A	清水九兵衛	抽象彫刻
老人	本郷新	男性裸体像、撤去
歩く鉄	土谷武	抽象彫刻
ふれあいの滝	新谷英夫・ユウキ <sup>注</sup> ・澤子・英子	レリーフ
虹の石	河口龍夫	抽象彫刻
W・Jモラエス翁像	長谷川雅司	胸像
星の肖像	新宮晋	抽象彫刻
海の栄え	久保浩	女性裸体像
愛「仔馬の像」	柳原義達	動物の像
KAWASAKI への道(瞑想のための彫刻)	カール・ブランドル	抽象彫刻

注. 新谷ユウキは新谷琇紀。





写真 23 とうや湖ぐるっと彫刻公園  
(洞爺湖)



写真 24 太陽の賛歌 (洞爺湖)

までに 58 基の彫刻が置かれた【写真 23】〔表 2〕。公園事業が決定する 1988 年より前から湖畔の遊歩道には、北海道出身の安田侃 (1945-) による「意心帰」と「回生」が置かれていた。虻田町・壮瞥町・洞爺村にまたがる彫刻公園の彫像は、「意心帰」を 1 番、「回生」を 2 番として 58 番まで番号がふられた。そのうち、7 基が女性裸体像である【写真 24】。

### 3. パブリックアートとしての裸体像

野外彫刻が日本中に広がる中で、1989 年、日本で初めてパブリックアートという言葉が用いられた。1989 年、『朝日新聞』に掲載された「広告ではありません 豊前でパブリックアート 89」という記事は、福岡県豊前市の天地山公園で、8 月 20 日から始まった市民造形展「パブリックアート 89」を紹介している〔朝日新聞 1989 年 8 月 21 日〕。1997 年には「野外彫刻で地域おこし」と題して、パブリックアートについて紹介された。パブリックアートは、地域振興の手段として注目されているが、「彫刻公害」と批判されることもあると述べている〔朝日新聞 1997 年 1 月 11 日〕。

東京都では 1990 年からパブリックアート事業を担当する部門が設けられ、東京都生活文化局のウェブサイトでは、野外彫刻設置事業を以下のように説

表2 とうや湖ぐるっと彫刻公園

番号	作品名	作者	形態
1	意心帰	安田侃	抽象彫刻
2	回生	安田侃	抽象彫刻
3	風	山田吉泰	抽象彫刻
4	湖渡る風	坂担道	人と動物
5	Sun-TOYA 讃洞爺	速水史郎	抽象彫刻
6	女	笹戸千津子	女性裸体像
7	旅ひとり	峯田義郎	抽象彫刻
8	SKY- 交差する気	常松大純	抽象彫刻
9	太陽の賛歌	堀内正和	女性裸体像
10	虹幻想	瀧川嘉子	抽象彫刻
11	円錐形にえぐられた立方体	堀内正和	抽象彫刻
12	洞照	雨宮敬子	女性裸体像
13	ひまわり	佐藤忠良	子供像
14	湖畔にて	黒川晃彦	男性像
15	回峰	奥山喜生	抽象彫刻
16	時空 87 ～船	石井厚生	抽象彫刻
17	シグナル	中井延也	抽象彫刻
18	薫風	秋山沙走武	女性像
19	啓示	米山ヒデノ	抽象彫刻
20	記念撮影一五月のかたち	峯田敏郎	女性3人像
21	環 - SORA	松隅康夫	抽象彫刻
22	THE EARTH VIBRATION とうや	近持イオリ	抽象彫刻
23	連舞 - リップル・ダンス	関正司	女性像
24	風の水面	伊藤隆道	抽象彫刻
25	肖像のある風景	湯川隆	男女2人像
26	循環	後藤良二	抽象彫刻
27	生彩	中江紀洋	抽象彫刻
28	風とあそぶ	鈴木吾郎	人物像
29	春～風光る	熊谷紀子	男女裸体像
30	夏～渚へ	神田比呂子	女性裸体像
31	秋～終日	秋山知子	女性裸体像
32	冬～星降る夜に	小野寺紀子	女性裸体像
33	春遊台	加治晋	抽象彫刻
34	風景の王国	小田襄	抽象彫刻
35	起源一湖上に向かって	湯村光	抽象彫刻
36	月	澄川喜一	抽象彫刻
37	湖景夢想	眞板雅文	抽象彫刻
38	STONE BPY-KAZE(TOYA)	廣瀬光	抽象彫刻
39	波遊	折原久左エ門	抽象彫刻
40	Summer	朝倉響子	人物像
41	風の音 '92	山本正道	抽象彫刻
42	I was (過去) ... I will (未来) ...	坂東優	女性裸体像
43	夢洞爺	空秋秋	抽象彫刻
44	輪舞	國松明日香	抽象彫刻
45	胞	掛井五郎	抽象彫刻
46	星との交感	永野光一	抽象彫刻
47	1.1√2 12の八角台形	田中薫	抽象彫刻
48	風待ち	渡辺行夫	抽象彫刻
49	みちしるべ～洞爺の人	速水史郎	抽象彫刻
50	色なき風	石川浩	抽象彫刻
51	オヨメサントコミチへ	阿部典英	抽象彫刻
52	復活	二部黎	女性像
53	うつろひ	宮脇愛子	抽象彫刻
54	月の光	イゴール・ミトライ	人物頭部像
55	Muse	明地信之	動物像
56	地殻・原始の海	岡本敦生	抽象彫刻
57	残留応力	丸山隆	抽象彫刻
58	SHOWEN	松本憲宣	抽象彫刻

明している。

東京都では、平成2年度から野外彫刻に関する事業を行っています。

この事業は、都立公園に彫刻作品を設置し、都民が優れた芸術作品に気軽に親しめる、うるおいのある野外空間を創り出そうとするものです。

設置されている作品は、いずれも、作家が周辺環境を考慮しながら、情熱を傾けて制作したもので、芸術性の高い優れたものです。

[東京都生活文化局ウェブサイト]

日本のパブリックアート設置は、芸術支援事業ではなく都市整備事業であり、単年度計画で実施されている。公共空間における美術の意義などが明確に論じられることは少なく、各地でバラバラにパブリックアートが置かれてきた [工藤 2008 : 9]。公共空間に設置されているという意味では「パブリック」という基準を満たしているものの、コミュニティと結びついた「アート」という意味では、数多くある野外彫刻はパブリックアートとは呼べないという [谷川 2002 : 170-171]。公的な空間に、公的な資金で設置されているため「パブリック」なアートとなる。

パブリックアートとしての女性裸体像が増えていった1990年代、その問題が論じられるようになった。1991年6月、アメリカ人医療人類学者、ダナ・ラファエル (Dana Raphael) は、西新宿の住友ビルで女性裸体像に衣服を着せる活動を呼びかけた。集まった約10名は、5基の女性裸体像の4基に服を着せたが、駆けつけた警備員によってその服は剥ぎ取られた [読売新聞 1991年6月24日]。

また、1995年1月28日、大阪市の府立女性総合センターにおいて「パブリックアートを考える会」が「街なかのヌード彫刻をどう見るか」という集会を開いた。この会は、大阪女子大学の萩原弘子助教授らの働きかけで結成され、集会では写真家、のひな利子などが講演を行った。1992年から始まった大阪市の彫刻設置計画「御堂筋ルネッサンス」で設置された22基の彫刻



写真25 ALBA 台座（神戸）

のうち、11基が裸体像であった。また、萩原らが調査した大阪の公共空間における裸体像は55基であった。萩原は、裸体像そのものを批判しているのではなく、美術館ではなく不特定多数の人びとが行き来する公共空間に置かれた女性裸体像が別の意味を帯びることがあり、それが女性たちを不快にさせることがあると指摘する。実際、乳首や陰部にいたずらされる女性裸体像は少なくない。女性裸体像を「平和」や「自由」の象徴と見なすことはできず、税金で公共空間に女

性裸体像を設置すべきではないと萩原は主張する〔読売新聞1995年1月27日〕。

実際に撤去された女性裸体像もある。神戸の「花と彫刻の道」の「ALBA」は2011年に撤去され、現在は、花壇に台座のみが残る【写真25】。制作者は神戸の「彫刻一族」の一人、新谷琇紀である。新谷はイタリア人の妻をモデルとした裸体像を多く制作した。「ALBA」もその一つで、右手で左脚をつかむという特異なポーズをしていた。撤去の理由は表面が風化した上、破損されることが続いたためというが、実際にはポーズが極めて卑猥であったからではないかとも言われている。

また同じく新谷による「MARINA」は、阪神淡路大震災後は異なる意味を付与されている。現在、「MARINA」の前には以下のように書かれたプレートが置かれている。

### 阪神大震災の記憶

平成7年1月17日午前5時46分

阪神淡路大震災により、このマリーナ像は倒れ、その時時計が壊れまし

た。

震災の記憶を永遠にとどめるために、この時計は、その時を示しています。

説明の横には倒れた「MARINA」の写真が付されている。

14基の彫刻の集まる東遊園地には、震災後、「慰霊と復興の

モニュメント」や「1.17希望の灯り」【写真26】というモニュメントが建てられた。震災の追悼行事や「神戸ルミナリエ」の会場となった東遊園地は、今では、野外彫刻のある空間というよりも、慰霊と追悼の空間と見なされている。こうした中で、「MARINA」は黄金の女性裸体像から震災の記憶を示すモニュメントへと変わったのである。



写真26 1.17希望の灯り（神戸）

## おわりに

1990年代に盛んに作られたパブリックアートは、その後、地方自治体の財政難から設置件数が減少し、また、設置後の維持管理にも十分な予算が割けない。公共空間における女性裸体像の問題は、以下の二点で議論が不十分であったことから生じている。第一は、何をもってパブリックアートと見なすのかという点、第二は、女性の裸がなぜ「平和」や「希望」を象徴するのかという点である。地元の彫刻家を起用したとしても、その作品と地域との関係が希薄である以上、脈絡もなく彫像が置かれているという印象は払拭できない。これは「芸術性の高い優れたもの」であるか否かが問題なのではなく、なぜ彫像がそこにあるかという必然性の問題である。それゆえに、女性裸体像を税金で作ることへの批判が高まっていくのである。

日本の公共空間には多くの女性裸体像があるが、その正確な数を把握す



写真27 陽（函館）

ることは難しい。駅前を歩けば、【写真27】のような光景を眼にする。これはライオンズクラブが1996年に函館駅前に設置した「陽」という彫像であり、制作は乾漆彫刻で名を馳した秋山沙走武（1930-2001）が担当した。埼玉県加須市に生まれた秋山は東京教育

大学を卒業した後、しばらくしてから、北海道教育大学函館分校の教授に就任し、北海道で活動が続けた。地元縁のある彫刻家と、ライオンズクラブによる設置というパブリックアートとしての彫像の典型例である。

女性裸体像を好むのは、ライオンズクラブやロータリークラブ、地方自治体などの依頼者側か、それとも制作者側なのか。この問いに対する答えの手がかりは、日本の彫刻教育に求めることができる。近年、女性裸体像の問題に取り組んでいる彫刻家の小田原のどか（1985-）は次のように述べている。

この国において彫刻を学ぶことは、裸の女をうまくつくる技術を習得することに等しいといっても過言ではない側面がある。そこでは、西洋における文脈や図像学的な解釈を学ぶことは留め置かれ、形態を模倣し再現することが重んじられる [小田原2018: 441]。

彫刻家たちが「希望」や「平和」というタイトルで女性裸体像を作ったとしても、見る人にとって、なぜ若い女性の裸が「希望」や「平和」を象徴するのかは不明のままである。裸体像を「ヌー銅」と称して、日本各地の裸体像の写真を集めて「ヌー銅セクシー・コンテンツ」を行っているみうらじゅんは、この点について以下のように語る。

女性銅像の中には大股開きのももある。

また近づいた者は本能ゆえであろうか、

男のそれが視線の先にブラ下がっているのが運のツキ、

何人もの人に触られまくり、黒光りしているのが常だ。

台座にはそれを見越してか、“そういう目的で作ったんじゃない”と、

『希望』とか『愛』なんて、どーでもいいタイトルが加えられている。

みうらじゅん「ヌー銅セクシー・コンテスト」

公共空間の裸体像は男女を問わず破損されることが多い。特に女性裸体像は「セクハラ」を受ける可能性が高い。イタリアのヴェローナにあるジュリエット像はそれを見越して、「ジュリエットの胸を触ると幸せになる」という一種の都市伝説を作り上げた。手入れされている公共の彫像に堂々と触る行為はそれほど卑猥さをかもし出さない。見る人に嫌悪感を抱かせるのは、手入れされていない女性裸体像が何かしらの悪戯をされたときである。公共空間にある彫像は定期的に磨かないと、排気ガスや鳥のフンにまみれてしまう。また素材によっては劣化が急速に進むものもある。女性裸体像に限らずパブリックアート全体は財政難から設置後の維持管理が不十分であるが、女性裸体像特有の問題を挙げれば、その設置場所に起因する。それはポケットパークと呼ばれるような小さな空き地や、十分なスペースもない歩道であり、戦前の偉人・英雄像には決して用いられない場所なのである。

かつての偉人・英雄像は定期的に清掃されていた。万世橋の廣瀬武夫像(1910年)の場合、彼の命日の3月27日に清掃が行われていた[朝日新聞1932年3月28日]。さらに、銅像下の広場では彼の命日に式典が開かれた[朝日新聞1934年3月28日]。女性裸体像には式典を持つ機会もなく、式典のための十分な空間もない。戦前、少年たちが廣瀬武夫像を磨いたように女性裸体像を磨くことになれば、それを命じることそのものが「セクハラ」に当たってしまう。結局、設置後の女性裸体像は、どうすることもできない「厄介」な存在となってしまふのである。

本研究は、科学研究費基盤研究B「東アジアの戦争観光とナショナリズム」(15H03140、代表：高山陽子)の助成を受けたものである。

#### 参考文献

- 小田原のどか「空の台座：公共空間の女性裸体像をめぐって」小田原のどか（編著）『彫刻1』topofil, 2018年、400～450ページ。
- 工藤安代『パブリックアート政策：芸術の公共性とアメリカ文化政策の変遷』勁草書房、2008年。
- 木下直之『銅像時代：もうひとつの日本彫刻史』岩波書店、2014年。
- クラーク、ケネス『ザ・ヌード：理想的形態の研究』ちくま学芸文庫、2004年（筑摩書房、1971年）。
- 柴田葵「アーティスト・イン・レジデンスの前史としての彫刻シンポジウム」『環境芸術』9, 2010年、81～86ページ。
- 白川昌生「近代・モニュメント・戦争」白川昌生・金井直・小田原のどか『彫刻の問題』トポフィル、2017年、8～32ページ。
- 高山陽子「戦跡観光と記念碑」『国際関係紀要』20(1/2)、2011年、185～230ページ。
- 高山陽子「パブリックアートとしての銅像」『国際関係紀要』23(1/2)、2014年、21～52ページ。
- 高山陽子「銅像のジェンダー」韓敏（編）『現代中国における文化変容の諸相：グローバル化の視点から』風響社、2015年、77～96ページ。
- 竹田直樹『日本の彫刻設置事業：モニュメントとパブリックアート』公人の友社、1997年。
- 谷川真美「まちづくりとパブリック・アート」上野征洋（編）『文化政策を学ぶ人のために』世界思想社、2002年、169～180ページ。
- 千葉慶「帝都の銅像：理念と現実」『美術フォーラム21』18, 2018年、65～68ページ。
- 平瀬礼太『彫刻と戦争の近代』吉川弘文館、2013年。
- 松尾豊『パブリックアートの展開と到達点：アートの公共性・地域文化の再生・芸術文化の未来』水曜社、2015年。
- モッセ、ジョージ『英霊：創られた世界大戦の記憶』柏書房、2002年。
- 湯原かの子『高村光太郎：智恵子と遊ぶ夢幻の生』ミネルヴァ書房、2003年。
- 若桑みどり『イメージの歴史』ちくま学芸文庫、2012年（放送大学教育振興会、2000年）。



## ガイドブック

Heller, Allan M. (ed.)

*Monuments and Memorials of Washington, D.C.*, 2010, Schiffer Publishing, Ltd.

Kershman, Andrew (ed.)

*London's Monuments*, 2013, Metro Publications.

## 新聞記事

「広瀬中佐の銅像清掃 海洋少年団の奉仕」『朝日新聞』1932年3月28日

「軍神広瀬中佐、きょう30年式典 銅像の下で盛大に」『朝日新聞』1934年3月28日

「彫刻都市に衣がえ 宇部 彫刻家も協力して」『朝日新聞』1961年2月6日

「宇部の公園を舞台に 野外彫刻コンクール」『朝日新聞』1977年10月17日

「広告ではありません 豊前でパブリックアート89」『朝日新聞』1989年8月21日

「街頭に裸婦像なんて…米女性学者が抗議のパフォーマンス」『読売新聞』1991年6月24日

「街なかのヌード彫刻 女性に不快感 大阪の民間グループが考える集い」『読売新聞』1995年1月27日

「野外彫刻で地域おこし (アートが街にやってきた1)」『朝日新聞』1997年1月11日

「洞爺湖ぐるり、彫刻58基の輪 虻田町、壮瞥町、洞爺村」『朝日新聞』1997年11月6日

「枚方の病院設置の裸婦像 健康的か刺激的か “美観論争” 院長板挟み」『読売新聞』1998年12月2日

## ウェブサイト

会津若松商工会議所ウェブサイト

<http://www.aizu-cci.or.jp/a-cci-inc1/02-topics/t2013/t2013-53.htm> (2018年7月9日アクセス)

宇部市ウェブサイト

<http://www.city.ube.yamaguchi.jp/kyouyou/choukoku/ubechoukoku/index.html> (2018年6月20日アクセス)

UBE ビエンナーレ (現代日本彫刻展)

<http://ubebiennale.com/> (2018年7月8日アクセス)

神戸市ウェブサイト

<http://www.city.kobe.lg.jp/index.html> (2018年7月2日アクセス)

東京都生活文化局

[http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/bunka\\_seisaku/0000000625.html](http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/bunka_seisaku/0000000625.html) (2018年6月19日アクセス)

みうらじゅんのニッポン民俗学研究所「ヌー銅セクシー・コンテスト」結果発表  
第5弾

[https://colocal.jp/topics/donuts-culture/nippon-folklore/20130920\\_23932.html](https://colocal.jp/topics/donuts-culture/nippon-folklore/20130920_23932.html)  
(2018年7月2日アクセス)

BBC NEWS

“Millicent Fawcett: Statue of suffragist unveiled.”

<https://www.bbc.com/news/uk-politics-43868925> (2018年5月29日アクセス)

“Reality Check: How many UK statues are of women?”

<https://www.bbc.co.uk/news/uk-43884726> (2018年7月10日アクセス)

Capp, Kriston

“The Gender Gap in Public Sculpture” (Feb 24, 2016)

<https://www.citylab.com/design/2016/02/the-gender-gap-in-public-sculpture/463170/>  
(2018年7月11日アクセス)

Meier, Allison

“The Only Five Public Statues of Historic Women in NYC.”

<https://hyperallergic.com/226186/the-only-five-public-statues-of-historic-women-in-nyc/>  
(2018年7月11日アクセス)